

第17期事業報告

2020(令和2)年10月1日から2021(令和3)年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

これまで当法人ではモンゴルの障がい児者を支援する活動を行ってきたが、今期は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、活動が大きく制限された。

日本国内では令和2年11月から再び感染者の増加がみられ、大都市圏を中心に令和3年1月8日から同年3月21日まで緊急事態宣言が発出された。更に4月以降は、デルタ株の感染拡大により、令和3年4月25日から同年9月30日まで再び緊急事態宣言が発出された。この間、テレワークの推進、不要不急の外出の制限、会食や集会の制限が行われた。当然、海外渡航も制限された。

一方、モンゴルでは厳しい入国制限と行動制限のため、令和2年12月まではほとんど感染者はいなかったが、令和3年1月から次第に増加した。このため、学校等の活動休止は継続され、当法人に関係のあるモンゴル人も感染するなど影響が続いた。

このような状況のため、法人の活動も大きく制限された。4月下旬に予定していた専門家派遣は中止となり、夏の交流ツアーも中止となった。国内での活動として、6月に報告会を兼ねたチャリティーコンサートを行い、昨年に引き続き無観客でオンライン配信とした。

JICA 草の根事業「モンゴルにおける障害児療育・教育支援及び療育関係者育成事業」で関わった二つの障がい児センターでは、事業で始まった「草の根の日」の継続を希望していたが、コロナのためほとんど開催することはできなかった。草の根事業活動の報告書のモンゴル語版の作成した。これをモンゴル国内での療育活動の参考にしてもらうこととした。また草の根手帳も完成し運用が開始した。

一方、昨年9月から開始した、モンゴル障がい児リハセンターのオンライン講義は、その後継続され、整形外科関係3回、内科関係2回、教育関係1回を行った。モンゴル側当事者から高い評価を得ることができた。

事務局としては、対面の会議ができず、オンラインによる会議をほぼ月1回行った。

II. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	内 容	実 施 日 時	実 施 場 所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	支出額 (千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) モンゴル障がい児療育支援事業						
(ア) JICA 草の根技術協力事業継続事業						
ア. 専門家派遣	中止					
イ. 現地での日常活動	現地補助員が2か所の障がい児センターを訪問して活動（読み聞かせや、給与・交通費の支払い等）	10月1日 ～ 9月30日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約60人 障がい児・者と家族：約100人	61
ウ. 国内での活動	Facebookによる連携、教材開発他					
(イ) 国立障がい児リハビリテーション開発センター支援事業						
ア. 専門家講義	ZOOM 会議による講義					
イ. 現地での日常活動	なし	8月1日～ 9月30日	モンゴル国、ウランバートル市	8人	障がい児医療従事者：約30人	0
ウ. 国内での活動	Facebookによる連携、教材開発他					
(2) その他のモンゴル障がい児療育支援事業						
ア. 専門家の訪問	中止	4月～ 5月	モンゴル国、ウランバートル市	0人	障がい児・者と家族：0人	0
イ. 車いす支援	渡航中止のため支援できず 国内不要車いすを倉庫に保管	10月～ 9月	杉並区、ウランバートル市、	1人	モンゴル国の障がい児・者と家族：0人	0

ウ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。無観客オンラインで実施。	6月27日	東京都目黒区	10人	一般市民：多数	206
エ. 支援事業の運営	上記事業および交流ツアーなどを含めモンゴル関係者との連絡・調整を行った。	年間	ウランバートル市、東京都武蔵野市	4人	障がい児・者と家族：約100人	0
2. 海外の障がい児・者等との交流事業						
(1) モンゴルへの研修・交流ツアーの企画実施						
ア. モンゴル交流ツアー	中止	8月	モンゴル国	0人		0
3. 啓発事業						
(1) セミナー等の開催	実施なし					0
4. 文化交流事業						
	モンゴル支援事業報告会をもってあてた。					0
5. 情報提供事業						
	HP、ブログ等の発行により情報を発信。	随時	法人事務所	2人	一般市民：不特定多数	10

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業---モンゴル障がい児療育支援事業

(ア) JICA草の根事業の継承事業

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、モンゴルでは全ての教育機関が2020年1月から8月いっぱい閉鎖し、草の根事業で支援していたサインナイズセンターとゲゲーレンセンターも定期的に子どもが集まれなくなっていた。2020年9月には一時的に教育機関の閉鎖が解除され、草の根の日活動が数回行われたが、間もなく再び閉鎖となっている。草の根の日のランチ代支援をはじめとするニンジンの支援は中断を余儀なくされた。

センターに親子が定期的集まる機会は閉ざされたものの、サインナイズセンターでは青年となった障害児の活動場所を確保するために、青年たちに技術を教えつつ建物の補修を行って、階段に手すりをつける、庭にビニールハウスを設置して野菜、花を栽培するなどの活動を自主的に行なった。建物内に近隣から寄付された図書を並べて図書室を開設した。ニンジンからはサインナイズセンターとゲゲーレンセンターに子どもの本に加えて、大人が障害を理解できる本を寄付した。

『モンゴルの障害児の笑顔のために』というタイトルで、草の根事業の実践報告をまとめてモンゴル語のNPO ニンジンのFacebookにアップすることができた。2020年度には3621件の閲覧があり、シェア（共有し自分のFBに紹介した）が40件あった。同じ内容のパンフレットを300部印刷して、ウランバートル市内に限らず、地方に住む障害児を育てている親や、療育・教育関係者に配布する予定である。

2021年9月に新学期を迎えたモンゴルでは教育機関の閉鎖が解除されたが、新型ウイルス感染症蔓延が治まらず、サインナイズとゲゲーレンセンターの関係者がコロナ罹患入院する事態となり、未だに活動は再開されていない。

(イ) 国立障がい児リハビリテーションセンター支援事業

一昨年モンゴル・ウランバートル市に建設された国立障がい児リハビリテーションセンターは、モンゴル国の障がい児を本格的に療育するセンターとして運用が開始された。しかし、人材不足や経験不足から課題が多く、現場からの要請を受け当法人としても支援することとし、前期9月の第1回に引き続きオンラインによる講義を行い、整形外科以外に内科、教育関係の講義を行った。

① 整形外科第2回

- 日時 10月9日
- テーマ「脳性麻痺概論（1）」
- 演者 城良二（理事長）
- 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）
- 参加者 整形外科医等 30名

② 整形外科第3回

- 日時 12月4日
- テーマ「脳性麻痺の装具療法」
- 演者 城良二（理事長）

- 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）
 - 参加者 整形外科医等 30名
- ③ 整形外科第4回
- 日時 12月4日
 - テーマ「障がい児の下肢変形とその対応」
 - 演者 城良二（理事長）
 - 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）
 - 参加者 整形外科医等 30名
- ④ 内科第1回
- 日時 月4日
 - 自由討論
 - 演者 小川勝彦（理事）
 - 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）、トヤ
 - 参加者 小児神経医師等 30名
- ⑤ 内科第2回
- 日時 3月24日
 - テーマ「重症心身障がい児者の合併症への対応」
 - 演者 小川勝彦（理事）
 - 通訳 アマラー、ヒシゲー（同センター療育部長）
 - 参加者 小児神経医師等 30名
- ⑥ 障がい児教育第1回
- 日時 3月12日
 - 自由討論 療育指導で困難に感じていること
 - 演者 林賢三（理事）
 - 通訳 ヒシゲー（同センター療育部長）
 - 参加者 療育関係者等 20名

また、同センターから様々な療育関連相談があり、国内の障がい児の水泳指導書を提供した。更に、障がい児の摂食に使用する各種用具の調達を手伝った。

(ウ) その他のモンゴル障がい児療育支援事業

① 専門家の訪問

新型コロナウイルスの世界的な流行により、2021年4月に予定していたモンゴルへの渡航は断念せざるを得なかった。残念ながら、実質的な活動は何ら行うことができなかった。先の見通しが持てない中、渡航再開後に向けて、延期になったモンゴル神経学協会の若手医師向けのてんかんに関するセミナーの開催を期して、スライド原稿を作成しモンゴル語への翻訳を依頼した。また渡航再開後に、現地の医療機関で障害児者の診察を合同でできるように、現地医師との情報交換を行った。

② 車いす支援

例年、専門家の渡航および交流ツアーの際に国内で不要になった小児用車椅子等をモンゴル航空の協力で運搬しているが、今期は新型コロナウイルス感染拡大のため、専門家の渡航および交流ツアーが中止となり、運搬できなかった。運搬再開に向け車椅子等を収集している。

(ア) 車いす提供：杉並区立こども発達センター

(イ) 保管場所：理事長宅

③ 事業報告会の開催

モンゴル支援事業への理解者・支援者をさらに増やすことを目的とし、第17期活動報告およびモンゴル音楽コンサートをライブハウスにて開催し、リアルタイムオンライン配信をおこなった。この模様は録画し、継続してYouTubeで閲覧可能とした。視聴者から配信中およびYouTube閲覧後、寄付を募り、視聴者・支援者69名から総額351,300円が寄せられた。

・実施日時：2021年6月27日（日）12:30～15:00

・会場：ライブハウスAPIA40（東京都目黒区碑文谷）

1. 報告会：

司会 大場 摩衣子（城整形外科クリニック事務）

報告者 城 良二（理事長）第17期活動報告

梅村 浄（理事・草の根事業リーダー）

ゲゲーレン・サイナイズセンターへの支援報告

2. 第18回 チャリティコンサート モンゴルの風（前半30分間、後半30分間）

演奏者：イフタタラガ（モンゴル伝統音楽グループ）

・YouTube URL：<https://www.youtube.com/watch?v=65Gc9GHjm28&t=2929s>

視聴者は、約900名

(エ) 支援事業の運営

上記の支援事業を円滑に運営するために、年間を通して事務局、現地協力者と連絡を取った。

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル交流事業

例年夏にモンゴルの障がい児に車いすを届ける旅として交流ツアーを続けてきたが、今期は新型コロナウイルス感染拡大のため、モンゴルへの渡航が中止となり、交流ツアーも中止となった。

3. 啓発事業

(1) アジア諸国の障がい児・者及び少数民族支援等に関する啓発セミナー等の開催

実施なし

4. 文化交流事業

(1) モンゴル文化紹介

モンゴル支援事業報告会をもってあてた。

5. 情報提供事業

(1)インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログ他による情報発信。

(2) Eメールニュース（「ニンジン・アップデート」）の発行はできなかった。

6. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数	(2021年9月30日現在)
個人正会員	20人(20口)
団体正会員	0人
個人賛助会員	29人(29口)
団体賛助会員	3団体(3口)

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催 (年1回)

日時：2020年12月6日(日) 14:00~16:45

会場：城整形外科クリニック

イ. 理事会の開催 (年2回)

第1回：2021年3月19日(金) 19:30~20:30

第2回：2021年9月24日(金) 19:30~20:30

会場：いずれも ZOOM 会議

ウ. 運営委員会の開催 (12回開催)

理事および会員有志からなる運営委員により、事業実施の詳細を決め実施した。

3月以降は、新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン会議で行った。

(3) 財源の確保

大口の財源は獲得できず、会員の会費および個人の寄付に依存している。

(4) 事務局運営の改善

事務局が移転し、事務員不在となり役員のボランティアにて活動を維持している。

(5) ニンジン・サポーターズ倶楽部

新型コロナウイルス感染拡大のため、物品の販売する機会は限定的であった。